

あとがき

今年はことのほか暖冬とのこと、季節のめりはりがなくなってきました。京都では昨年は梅便りがずいぶん遅く、北野の梅と八坂の桜がほとんど同時であったように記憶しています。一方、温暖化の影響でこのままでは日本列島の亜熱帯化に手が届くといわれています。最大の変化は植生で、リンゴ産地は北海道へ移り、京都で温州みかんが採れるかも知れません。

気候と医学あるいは医療を考えても、伝染病の種類が変わるでしょうし、水際作戦が問題なのではなく、国内に持ち込まれる病原微生物やその媒介を務める動物の管理が大変になります。耳鼻咽喉科領域では冬がなくなることで、温度センサーと日射量センサーで管理されているスギの開花なども大きな変化が予想されます。北海道にスギやヒノキを植林するような馬鹿げたことは起こらないでしょうが、短い春が集中的な花粉飛散を呼ぶのではないのでしょうか。

猛威を振ったノロウイルスも温暖化を含めた気候による疾病構造変化の先駆けかもしれません。しかし私流に言えば食生活の変化も大きいと思います。生食の氾濫、家庭で調理される食事の減少も一つの傾向因子ですし、何よりも重要なのはその裏にある衛生神話の崩壊ではないのでしょうか。清浄野菜や無菌豚肉など少し考えればその程度が判断しかねる基準が溢れています。われわれ団塊の世代は、手洗いやうがいは学校で励行され、半ば義務化しています。結核症は家庭の普通の話題でしたし、虫下し、トラコーマなど感染症が生活の一部にありました。従来、MRSA・多剤耐性緑膿菌などの院内感染症をターゲットとしていた病院の感染症対策は、ノロウイルスには無防備であったことが露呈しています。鳥インフルエンザについても多分同じことでしょう。

耳鼻咽喉科外来疾患のかなりの比率は、感染症が占めています。2月号の特集は、『抗菌薬のファースト・チョイス』です。感染症に対する心構えと知識を改めて新鮮にしていいただければ幸いです。『案ずるより生むが易し』といいますが、外界の変化に伴う病気の移り変わりは医療に携わる人々が全員で考える大問題ではないのでしょうか？

(竹中 洋)

編集顧問

大和田健次郎

佐々木 好 久

曾 田 豊 二

坂 井 真

小 田 恂

編集委員

八 木 聰 明

竹 中 洋

吉 原 俊 雄

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 (第79巻 第2号)

発 行 株式会社 医学書院

2007年2月20日発行(毎月1回20日発行)

代 表 者 金原 優

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

〔2007年年度ぎめ予約購読料 39,950 円
増刊号を含む 13 冊, 税込・送料小社負担〕

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5710 (担当 西塚・中田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802 (編集室)

E-mail: jikotokei@igaku-shoin.co.jp

振替口座 00170-9-96693 番

印 刷 所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005

広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

・医学書院ホームページ(インターネット)は

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/>です。

・「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」のページは

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jikotokei/>です。

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・JICIS< (株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

・本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(03-3817-5670)の許諾を得てください。